

都保健所における結核業務管理ツールの導入

2050 東京戦略

資料 5

1 事業概要・実施状況

※関連計画：2050東京戦略 3か年のアクションプラン、福祉・保健医療分野DX推進計画ver.2.0 等

- 結核は、全数管理を行う感染症の中で患者数が多く、治療・経過観察のため長期にわたる患者管理が必要
また、患者の接触者についても健診管理が必要。特に集団感染の可能性がある場合、管理対象の接触者も多数
- これまで紙で管理していた患者の「結核登録票」をデジタル化し、**患者・接触者対応用の管理ツールを構築**
- ▶ 令和6年6月から開発着手。保健師等によるユーザーテストを計6回実施し、フィードバックを踏まえて構築
同年10月末、多摩立川・多摩府中の両保健所に先行導入



2 ツールのポイント

- ① **患者・接触者情報と進捗管理表をアプリに統合**
⇒ ・アプリ内でも業務フローに応じてタブで情報整理。業務に応じた一覧・リストで効率的に進捗管理
・帳票出力まで一貫 例) 入院勧告、診査会諮問書、定期病状調査書、結核登録票
- ② **都保健所の結核業務を標準化し、都保健所間での情報連携による業務の効率化**
⇒ 職員間の情報共有や進捗管理を効率化し、よりきめ細かな患者対応に注力
- ③ **ダッシュボードで管内の結核概況などをリアルタイムで「見える化」**
⇒ 今月新規登録患者、患者の入通院・検診状況、定例診査協議会の案件予定などを一目で把握



3 令和7年度の取組・スケジュール

| R5年度 | R6年度 | R7年度 |
|-----------------------------|-------------------|--|
| ・企画立案支援 ・都保健所ヒア、 業務分析 | システム開発 ユーザーテスト | 保健所の意見等を踏まえ随時ブラッシュアップ 第2四半期 他の4都保健所に導入予定 第1陣：多摩小平、島しょ 第2陣：西多摩、南多摩 |